学部学生における教育実習の指導方法に関する研究
―国語科における模擬授業指導の検証を中心にして―

田中耕司*

Kohji TANAKA
An Orientation Process for Undergraduate Students Prior to Practice Teaching：
Management of a Trial Lesson in the Japanese Language

ABSTRACT

島根大学教育学部（国語教育コース）に在籍する３年次生11名、２年次生９名を対象に、教育実習指導（学校教育実践研究Ⅱ、学校教育実習Ⅱ）の一環として模擬授業指導を行った。教育実習前の模擬授業指導は、昨年度まで３年次生のみで実施していた。しかし、二つの実践上の課題（１．実践経験が十分にない時点での学生の立場からの評価・改善点の指摘、２．学習環境に対する馴化）が顕在化したことから、今回の実施にあたって、課題解決のための四つの手立て（１．外部講師との共同指導、２．生徒役としての２年次生の参加、３．実施場所の移動、４．状況設定の追加）を講じて実施することとした。また、講じた手立ての効果を判断するためにアンケート調査を行った。その結果、回答した全ての３年次生、２年次生が今回の模擬授業を受けてよかったと考えており、また、課題解決のための四つの手立てを積極的に評価する記述が得られた。

【キーワード：教育実習，模擬授業，国語科】

問題と目的

島根大学教育学部では、学部１年次より、３年次における授業実践を伴う学校教育実習に向けたカリキュラムが組まれている。このカリキュラムでは、１年次に学校実践研究Ⅰ、学校教育実習Ⅰ、２年次に学校教育実習Ⅱ、３年次に学校教育実践研究Ⅱおよび学校教育実習Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、４年次に学校教育実習Ⅵが配置されている。

これらは、およそ下記のような時間配分で実施されている[1)]。

学校教育実践研究Ⅰ：１年次前期30時間
学校教育実習Ⅰ：１年次前期20時間
学校教育実習Ⅱ：２年次通年20時間
学校教育実践研究Ⅱ：３年次通年30時間
学校教育実習Ⅲ：３年次前期40時間
学校教育実習Ⅳ：３年次後期160時間
学校教育実習Ⅴ：３年次後期40時間
学校教育実習Ⅵ：４年次前期40時間

（以下それぞれ「実践研Ⅰ」、「実習Ⅰ」のように略して記述する。）

これらは、平成26年度、次のように実施された。

実習Ⅰは、主専攻が決定する以前の実習であり、附属学校園を幼稚園１日、小学校２日、中学校２日のスケジュールで観察し、保育や授業の大枠を理解するためのものである。実習Ⅱは、主専攻決定後の実習であり、各主専攻で取得する免許に基づき、観察の範囲を狭め、主専攻に基づいた保育・授業の観察、授業協議等を行う。そして、実習Ⅲ、Ⅳで、それぞれの専攻に応じた保育・授業実践に取り組むことになるが、実習Ⅲにおける授業実践は国語科では１時間のみ行い、複数時間で構成される１単元の実習は、いわゆる「本実習」に相当する実習Ⅳで行うことになっている。続く実習Ⅴは、校種を変えた観察実習であり、例えば、学校教育実習Ⅲを中学校で行った学生は小学校へ、実習Ⅲを小学校で行った学生は中学校で、５日間の観察実習を行うことになっている。また、４年次の学校教育実習Ⅵは、選択制の実習であるため、教育学部生の必修となる実習は３年次生の実習Ⅴまでである。したがって、学部学生が共通して授業実践を行わなければならない実習は、３年次の実習Ⅲ、実習Ⅳまでである。

また、実習Ⅰ、実習Ⅲ、実習Ⅳのみ、それぞれの準備、振り返りの時間に相当する実践研Ⅰ（実習Ⅰの準備および振り返り）、実践研Ⅱ（実習Ⅲ、実習Ⅳの準備および振り返り）が設けられている。実践研Ⅰは主専攻決定前のために各主専攻での指導は行われないが、実践研Ⅱに関しては、実習Ⅲ終了後に７時間分の指導を主専攻で実施することになっているため、この時間の取り組みのあり方が、実習Ⅳにおける各学生の授業実践および教育実習の質の向上へとつながると考えた。

なお、前年度までで筆者が担当し、実施した内容は下記の通りである。

平成24年度：国語教育コースの３年次生（12名）のみで実施。教材研究ののち、１回につき２名程度を目安に、大学にて模擬授業を実施。学生にもその場で意見を述べさせ、評価・改善点等を指摘。

* 島根大学教育学部言語文化教育講座

平成25年度：国語教育コースの３年次生（11名）のみで実施。教材研究ののち、一人15分程度を目安に、大学にて模擬授業を実施。学生からの提案で、学生自身による評価・改善点を附箋に記して本人に返却。

この二年間の実施後の課題として、以下の二点が挙げられる。

課題１．同じ専攻の学生同士で実施する模擬授業のため、実践経験が十分にない時点での学生の立場からの評価・改善点の指摘となること。

課題２．指導者である筆者も含め、既知の関係での模擬授業の実施であるため、既に環境に対する馴化が生じており、新鮮さが薄れ、それが模擬授業のための準備や実施に影響を与えていると考えられたこと。

そこで、以上二点の課題を解決するために、平成26年度、新たに取り組んだ実践研Ⅱにおける専攻実施分の指導方法について調査を行い、その効果を検証することとした。

方　法

１．対象

平成26年度島根大学教育学部国語教育コース３年次生11名および２年次生９名の合計20名を対象として実施した。（模擬授業の実施は、３年次生が主たる対象となるため、以下記述の順は３年次生、２年次生とする。）

２．実施日程および場所

平成26年８月25日（月）午前９時から午後４時（途中昼休憩を含む）、島根大学教育学部附属中学校にて実施した。

３．課題解決のための手立て

平成26年度は、上記の課題に対応するため、下記の四つの手立てを講じて模擬授業を行うこととした。

（１）外部講師との共同指導（課題１および課題２に対して）

東京都立両国高等学校教諭に、模擬授業の参観と評価・改善点の指摘のコメントを依頼した。依頼した教諭は同校附属中学校教諭も含め、中学校教育現場の実践経験もある教諭である。現職教員の前での模擬授業を行うことを学生に周知することにより、事前準備と当日の模擬授業における取り組みの質が高まることをねらったものである。

（２）生徒役としての２年次生の参加（課題１および課題２に対して）

実習Ⅱと関連づけ、生徒役として２年次生を模擬授業に参加させた。当日参加した２年次生は合計９名であり、３年次生における模擬授業実施者以外の学生（10名）との合計が19名になる。実際の生徒役が多数存在することにより、臨場感のある模擬授業になることが期待できるとともに、同学年でない学生の参加により、緊張感を持った実践になることを意図した。

なお、平成26年度も、学生自身による相互評価・改善点を附箋に記して本人に返却しているが、方法を分け、３年次生同士では、評価・改善点の指摘を行うが、２年次生は、分析的な授業設計をまだ行っていないことから、単純に感想を記述して３年次生に返却するものとした。

（３）実施場所の移動（課題２に対して）

従来は、大学の模擬授業演習室を用いて模擬授業を行っていたが、教室の構造、スペース、使用機器が異なるため、学生が実習を行う島根大学教育学部附属中学校の教室を借りて実施することで、模擬授業中における声量、採光などの環境への配慮、板書の位置等にも注目しながら模擬授業が行えるのではないかと考えた。

（４）状況設定の追加（課題２に対して）

生徒役として19名の学生を教室に配置できることもあり、状況設定の追加を行った。状況設定の例としては、「授業中にぼんやりしている。」「授業中におしゃべりをしている。」等、実際の授業場面で生じた場合の対応が求められるものである。授業者以外の生徒役の学生がどのような役割を務めるかについては、模擬授業を実施する前にくじを用いて決定し、くじに書かれている指示（役割）を模擬授業が実施されている最中に行うこととした。当日の検討の結果、はじめの10分は役割なしで授業を行い、設定した状況を出すタイミングを10分後に任意で行うこととした。また、模擬授業者の希望に応じ、状況設定の追加を行わない学生もいた。

４．今回の取り組みについての評価・分析方法

模擬授業を行った３年次生および生徒役として授業を受けた２年次生それぞれにアンケート調査を行った。アンケートにおける質問項目は、それぞれ下記の要領で設計している。なお、最初の質問内容に関しては、３年次生、２年次生ともに同一内容である。（以下記述する学年の順序は、３年次生、２年次生とする。）

３年次生用

合同模擬授業実施に対する評価を求める項目

次の質問内容について、あなたにとってあてはまる番号を○でかこんでください。また、そのように回答した理由を次の空欄に具体的に記入してください。

・今回の模擬授業を受けてよかったと思いますか。

（回答は、「全くそう思わない」を１とし、「非常にそう思う」を５とする５件法を使用し、その下に理由を記述するための自由記述欄を設けた。）

合同形式に対する賛否を問う項目

昨年度、学校教育実践研究Ⅱの模擬授業は３年次生のみで実施しました。２年次生と一緒に行った今回の形式について、あなたの意見を「賛成」「どちらかと

いえば賛成」「どちらともいえない」「どちらかといえば反対」「反対」のうちから一つ選択し、○をつけてください。また、その理由を次の空欄に具体的に記入してください。
（回答は、上記の選択肢と、その下に理由を記述するための自由記述欄を設けた。）

2年次生用

合同模擬授業実施に対する評価を求める項目

次の質問内容について、あなたにとってあてはまる番号を○でかこんでください。また、そのように回答した理由を次の空欄に具体的に記入してください。
・今回の模擬授業を受けてよかったと思いますか。
（回答は、「全くそう思わない」を1とし、「非常にそう思う」を5とする5件法を使用し、その下に理由を記述するための自由記述欄を設けた。）

合同形式に対する希望を問う項目

あなたは次年度も今回と同じような形式で模擬授業を受けてみたいと思いますか。「はい」「どちらかといえばはい」「どちらともいえない」「どちらかといえばいいえ」「いいえ」のうちから一つを選択し、○をつけてください。また、その理由を次の空欄に具体的に記入してください。
（回答は、上記の選択肢と、その下に理由を記述するための自由記述欄を設けた。）

分析方法として、集計可能な項目に関してはそれぞれ集計を行った。また、自由記述に関しては、「合同模擬授業実施に対する評価」における自由記述は、意味単位ごとに区分し、課題解決のための四つの手立てを基準にその内容の出現の有無を判断した。また、基準に該当しない内容に関しては、類似内容ごとに項目立てしてまとめることとした。「合同形式に対する賛否を問う項目」「合同形式に対する希望を問う項目」における自由記述は、意味単位ごとに区分し、類似した内容ごとに項目立ててまとめることとした。また、今回は分類を著者のみで行ったため、アンケートに記述されたデータを結果に併記することとした。なお、結果に記載している記述№は、質問項目全体で得られた学生ごとの記述に対し、通し№を付けたものである。したがって、各質問項目内の№を付した記述に関しては、№が異なれば、異なる学生からの記述である。（ただし、質問項目が異なる場合の№に関しては、重複する学生も出現するため、比較分析や関連付けは今回行わないこととした。）

結果と考察

アンケート調査の結果が得られた合計18名（3年次生10名、2年次生8名）を分析対象とした。以下項目ごとに結果を示し、考察する。

1．合同模擬授業実施に対する評価

評価の内訳として、3年次生で5をつけた学生は6名、4をつけた学生は4名であった。また、2年次生で5をつけた学生は5名、4をつけた学生は3名であった。3年次生と2年次生の回答の平均は、3年次生でM＝4.60，ＳＤ＝0.48，2年次生でM＝4.63，ＳＤ＝0.49となっていた（Figure 1）。両群ともに、4未満の回答をした者がいなかったこと、また、「非常にそう思う」と設定した5に近いことから、3年次生、2年次生ともに今回の試みである合同の模擬授業に一定の評価が得られたと判断した。

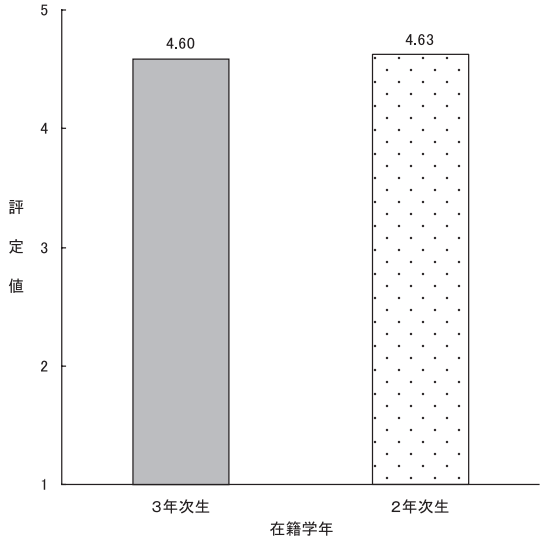

Figure 1　合同模擬授業実施に対する学生の評価

それぞれの学年、評価ごとの具体的な理由としては下記のとおりである。

［3年次生］

「5」をつけた学生の理由

・［記述№1］模擬授業をしてみて、自分の欠点や反省点を見つけることができた。また、授業の展開を改善するためのめやすになった。他の学生の模擬授業を見ることで、その学生の良い所や工夫している点を見つけることができた。それも自分の中に落とし込むことができたらよいと思った。
・［記述№2］今自分が計画している授業を実際にやってみて、人から評価されることによって、問題点や改善点が明確になり、より良い授業を計画することができるため。
・［記述№3］実際に行ってみなければわからない問題点が出てきたので、授業への想像がし易くなりよかった。附属中学校でできたのも、本番と同じ機材が使えたので、よい練習になった。
・［記述№4］最初はＢ班なので、する必要がないと思ったが、実際にすることによって、これからの方向性やアイデアが決まったので非常によかったと思う。生徒の役割を決めたことも、実際の授業に近づき、対応を考える機会になってよかったと思った。

しかし、過剰に役を演じすぎる部分は気をつけた方がいいと感じた。
・［記述№５］ご多忙でなかなか連絡が取れない先生がいる中、ほとんど指導も受けていないという状況で実習に臨む人も出て来た。なので、実習が始まる前に模擬授業をして良かった。
・［記述№６］現職の先生を招いて授業を行ってもらうことで、理論を実践にうつす際に重要となることを教えていただいた。授業を行っていろんな人の意見が学べる。授業を行っている人を見て、自分に置き換えて考えて、自身の向上を目指すことができた。

「４」をつけた学生の理由
・［記述№７］設定が過激に演じすぎるのでリアルさが少しなくなってしまった。時期がもう少し早いと、これから直すのに時間をかけられる。（８/25という時期について）
・［記述№８］模擬授業をしたことで大人数対教員で授業を組み立てなければならないことを認識できたように思うし、授業をしてみることで問題点を明らかにできました。また夏休み中でまだ授業が修正可能な段階で先生方に見ていただけたのも自分にとってプラスになりました。
・［記述№９］数日後に実習をひかえているので、みなの前で授業ができて自信になった。また、課題も見つけることができた。設定があることで、見ている人たちが盛り上がったと思う。授業者も様々なハプニングを体験できて良い学びだった。外部講師の先生から的確なアドバイスをもらい、自信につなげることができた。
・［記述№10］広島大学附属小[2)]や外部講師の先生の講義を受けて、今まで知らなかった考え方に気づくことができたから。

［２年次生］

「５」をつけた学生の理由
・［記述№11］実際により近い雰囲気で授業ができるので、今までは見つけられなかった問題が見えてくる。外部講師の話も聞けて、より良い授業に向かっていける。
・［記述№12］勉強になったから。
・［記述№13］模擬授業がどのようなものか実際に体験することで、生徒側の視点から理解することができたから。実習生が、教育実習に向かう過程を知ることができ、見通しを持つことができたから。先生の講評をその場で聞くことでどういう点が良く、悪いのかがはっきり分かったから。
・［記述№14］どのような機会であれ、授業を体験することは、教員としての力を身につけるためには重要であると思います。
・［記述№15］来年自分がどうすればよいか考えさせられるから。

「４」をつけた学生の理由
・［記述№16］教育実習で実際に授業を行う前の段階の授業する力がどれ程のものであるのかが２回生[3)]の時点で分かるため、事前の心構えがしやすい。また、しゃべっている子への注意のしかたや、効果的な発問の仕方などの技術も聞けて参考になった。
・［記述№17］一気に11人もの授業を受けるのは大変でしたが、１人１人から見習うべきものを見つけることができた。また、先生方のアドバイスも聞けるので、それも自分のためになると思う。
・［記述№18］毎年、先輩方がどのように授業を行っているのか、なかなか様子を知る機会が得られなかったから。

これらの内容について、課題解決のための手立てを基準に判断した結果を以下に示す。

（１）外部講師との共同指導（課題１および課題２に対して）を評価する記述
・［記述№６］現職の先生を招いて授業を行ってもらうことで、理論を実践にうつす際に重要となることを教えていただいた。
・［記述№８］また夏休み中でまだ授業が修正可能な段階で先生方に見ていただけたのも自分にとってプラスになりました。
・［記述№９］外部講師の先生から的確なアドバイスをもらい、自信につなげることができた。
・［記述№10］広島大学附属小や外部講師の先生の講義を受けて、今まで知らなかった考え方に気づくことができたから。
・［記述№11］外部講師の話も聞けて、より良い授業に向かっていける。
・［記述№13］先生の講評をその場で聞くことでどういう点が良く、悪いのかがはっきり分かったから。
・［記述№16］また、しゃべっている子への注意のしかたや、効果的な発問の仕方などの技術も聞けて参考になった。
・［記述№17］　また、先生方のアドバイスも聞けるので、それも自分のためになると思う。

（２）生徒役としての２年次生の参加（課題１および課題２に対して）を評価する記述
・［記述№８］模擬授業をしたことで大人数対教員で授業を組み立てなければならないことを認識できたように思うし、授業をしてみることで問題点を明らかにできました。
・［記述№９］数日後に実習をひかえているので、みなの前で授業ができて自信になった。

（３）実施場所の移動（課題２に対して）を評価する記述
・［記述№３］附属中学校でできたのも、本番と同じ機材が使えたので、よい練習になった。

（４）状況設定の追加（課題２に対して）を評価する記述
・［記述№４］生徒の役割を決めたことも、実際の授業に近づき、対応を考える機会になってよかったと思った。
・［記述№９］設定があることで、見ている人たちが盛り上がったと思う。授業者も様々なハプニングを体験できて良い学びだった。

自由記述の内容を上記の基準をもとに判断すると、課題１および課題２に対する手立てとして、今回講じた手立てに一定の効果があったことが推察できる。特に、「１．外部講師との共同指導の効果を評価する記述」を行った者は、８名となっており、かつ３年次生、２年次生それぞれから回答が得られている（記述№６，８，９，10（３年次生の記述），記述№11，13，16，17（２年次生の記述））。その他の項目に関しては、記述した学生の数は１～２名の記述となっているが、複数の条件が重なって効果を発揮するケースもあるので、今回、手立てとして設定した条件を取り除くことに関しては、今後、慎重に検討を進める必要がある。

なお、上記基準にあてはまらない記述および記述部分に関しては、学年ごとに下記のような回答が見られた。以下、学年ごとに多いものから順に示す。

［３年次生］
取り組むことによって得られる授業改善への示唆
・［記述№１］模擬授業をしてみて、自分の欠点や反省点を見つけることができた。また、授業の展開を改善するためのめやすになった。
・［記述№２］今自分が計画している授業を実際にやってみて、人から評価されることによって、問題点や改善点が明確になり、より良い授業を計画することができるため。
・［記述№３］実際に行ってみなければわからない問題点が出てきたので、授業への想像がし易くなりよかった。
・［記述№９］また、課題も見つけることができた。

観察による学習
・［記述№１］他の学生の模擬授業を見ることで、その学生の良い所や工夫している点を見つけることができた。それも自分の中に落とし込むことができたらよいと思った。
・［記述№６］授業を行っている人を見て、自分に置き換えて考えて、自身の向上を目指すことができた。

取り組むこと自体に対して意味を見出す内容
・［記述№４］最初はＢ班なので、する必要がないと思ったが、実際にすることによって、これからの方向性やアイデアが決まったので非常によかったと思う。
・［記述№５］ご多忙でなかなか連絡が取れない先生がいる中、ほとんど指導も受けていないという状況で実習に臨む人も出て来た。なので、実習が始まる前に模擬授業をして良かった。

さまざまな意見を学べることに意味を見出す内容
・［記述№６］授業を行っていろんな人の意見が学べる。

［２年次生］
実習に対する見通しを持つ
・［記述№13］実習生が、教育実習に向かう過程を知ることができ、見通しを持つことができたから。
・［記述№15］来年自分がどうすればよいか考えさせられるから。
・［記述№16］教育実習で実際に授業を行う前の段階の授業する力がどれ程のものであるのかが２回生の時点で分かるため、事前の心構えがしやすい。
・［記述№18］毎年、先輩方がどのように授業を行っているのか、なかなか様子を知る機会が得られなかったから。

具体的状況から問題が見出しやすくなるとする内容
・［記述№11］実際により近い雰囲気で授業ができるので、今までは見つけられなかった問題が見えてくる。

生徒側の視点の獲得
・［記述№13］模擬授業がどのようなものか実際に体験することで、生徒側の視点から理解することができたから。

体験そのものに対する評価
・［記述№14］どのような機会であれ、授業を体験することは、教員としての力を身につけるためには重要であると思います。

観察による学習
・［記述№17］一気に11人もの授業を受けるのは大変でしたが、１人１人から見習うべきものを見つけることができた。

３年次生が記述した内容（「取り組むことによって得られる授業改善への示唆」「観察による学習」「取り組むこと自体に対して意味を見出す内容」「さまざまな意見を学べることに意味を見出す内容」）は全て模擬授業の実施に関わるものである。したがって、教育実習前の模擬授業の実施は、必要性の高いものであると判断した。中でも「取り組むことによって得られる授業改善への示唆」に該当する記述の中には、自分が行った模擬授業の問題点や改善点について意識する記述がみられる。今回、の模擬授業では、先に記した「（１）外部講師との共同指導」において実施した模擬授業についてのコメントを行うことや、「学生自身による相互評価・改善点」を附箋に記して授業者に返却することを行っている。ともに、授業者に対して言語化してフィードバックする行為であることから、模擬授業に取り組むことによって自分自身を省みることに加えて、客観的視点からの問題点や改善点を的確に言語化してフィードバックすることが必要で

あることを再確認することができた。

２年次生に関しては、「実習に対する見通しを持つ」ことに関する内容が最も多かった。「見通し」に関しては次項で示す３年次生の意見としても現れる内容である。３年次生が実習へ向かうこの時期に２年次生にも見通しを持たせることは、２年次生が次の学年になった際に、どのような準備を進める必要があるのかについて、具体的に考えるための手助けとなると考えられる。「具体的状況から問題が見出しやすくなるとする内容」「生徒側の視点の獲得」は、具体的な文脈状況の中でこそ得られる意見である。これらを記述した２年次生は、今回の模擬授業を通して、自身が実施する際に活かすことができる視点を獲得することができたといえる。「体験そのものに対する評価」や「観察による学習」、また概括的ではあるが、「［記述№12］勉強になったから。」という記述からも、まだ漠然としたものであるが、実施そのものが２年次生にとっても意味があることがうかがえる。

２．合同形式に対する賛否（３年次生の意見）

合同形式についての３年次生の意見を「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらともいえない」「どちらかといえば反対」「反対」から選択を求めたところ、「賛成」が５名、「どちらかといえば賛成」が４名、「どちらともいえない」が１名であった（Figure２）。10名中９名が「賛成」もしくは「どちらかといえば賛成」とする結果であったことから、３年次生、２年次生の合同模擬授業は、基本的に３年次生からの賛同が得られたものであるということができる。

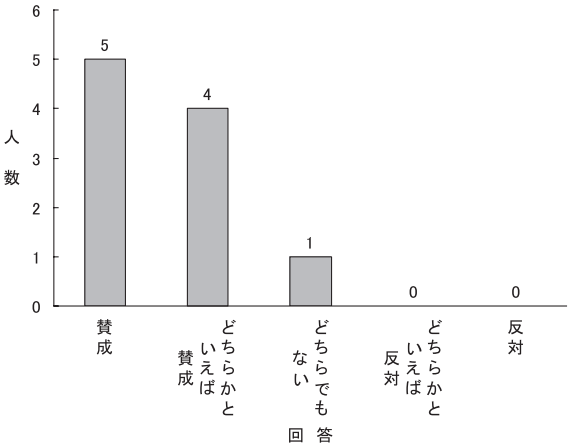

Fig２　合同形式に対する賛否（３年次生）

各意見の理由は下記の通りである。

「賛成」とした学生の理由
・［記述№19］２回生のまだ実習慣れしていない視点から意見をもらえることと、来年以降実習を行う２回生にとって、とてもいい時間になるから。
・［記述№20］２年生は、来年度に向けて良くも悪くも参考になると思う。
・［記述№21］自分が２年生の時は、実習について、よく分からなかったので、今回の形式で早めに実習の準備段階を感じられるのは、貴重な機会になったと思う。今の２回生が３回生になった時に、この機会を理由に実習の準備などを相談しやすくなり、後輩のためにもなると思った。
・［記述№22］２年生にも来年の授業の感じがわかるから。
・［記述№23］先輩の失敗から学んだことの方が、自分自身、覚えていたから。

「どちらかかといえば賛成」とした学生の理由
・［記述№24］２回生の視点から、授業を見た感想を聴けるので非常に参考になると思う。２期生も今後の自分を具体的にイメージできると思う。２回生は今回見るだけだったので、もう少し２回生が活動的・主体的な形式だと良かったかなと思った。
・［記述№25］もし、来ていただける人がいるなら４回生さんに来てほしい。→よりリアルな体験をしている人が近くにいるため。（完全なボランティアになってしまうが。）
・［記述№26］人数という意味では賛成。他の専攻の人でも良かった気もする。でも、２回生の立場としては、見ていて良かったはず。
・［記述№27］大人数で模擬授業をする方がより実践に近い状況で行えるので継続しても良いと思う。

「どちらともいえない」とした学生の理由
・［記述№28］人数が増えるという点ではよいと思いました。でも、三回生だけでも良かった気もします。

これらの記述に関して、意味単位ごとに区分し、類似した内容ごとに下記のAからEの５つにまとめた。なお、AからEの順は、考察のしやすさから並べたものである。

A.　２年次生からの「感想」に対する評価
・［記述№19］２回生のまだ実習慣れしていない視点から意見をもらえる。
・［記述№24］２回生の視点から授業を見た感想を、３回生が聴けるので非常に参考になると思う。

B.「相談しやすくなること」に対する評価
・［記述№21］今の２回生が３回生になった時に、この機会を理由に実習の準備などを相談しやすくなり、後輩のためにもなると思った。

C.「人数」に対する評価
・［記述№26］人数という意味では賛成。
・［記述№27］大人数で模擬授業をする方がより実践に近い状況で行えるので継続しても良いと思う。
・［記述№28］人数が増えるという点ではよいと思いました。

D.「観察すること」に対する評価
・［記述№20］２年生は、来年度に向けて良くも悪くも参考になると思う。
・［記述№23］先輩の失敗から学んだことの方が、自分自身、覚えていたから。
・［記述№26］　でも、２回生の立場としては、見ていて良かったはず。

E.　２年次生にとっての「今後の見通し」に対する評価
・［記述№21］自分が２年生の時は、実習について、よく分からなかったので、今回の形式で早めに実習の準備段階を感じられるのは、貴重な機会になったと思う。
・［記述№22］２年生にも来年の授業の感じがわかるから。
・［記述№24］２期生も今後の自分を具体的にイメージできると思う。

上記の分類のうち、「A.　２年次生からの「感想」に対する評価」は、専攻分野に入りまだ入門期半ばの段階の２年次生だからこそ述べられる意見に、３年次生が意味を見出す記述となっている。また、「B.「相談しやすくなること」に対する評価」は、先輩後輩間での関係づくりに関する記述である。両者を踏まえて考えると、３年次生、２年次生が共同で実施する模擬授業は、共有する経験を持つことで、３年次生と２年次生とを学びの側面でつなげる効果があると推察した。

「C.「人数」に対する評価」に関しては、手立てとして挙げた「２．生徒役としての２年次生の参加（課題１および課題２に対して）」の効果を評価する記述に相当する。模擬授業を実施するにあたって、人数が少なければ、存在しない生徒を想定して行わなければならなくなる。同じ想定であっても学生が存在した方がより想定しやすいということであろう。

「D.「観察すること」に対する評価」は、これまで２年次生が３年次生の準備段階を知る機会を設けることの意味を記述した内容である。この点も踏まえて、「E.　２年次生にとっての「今後の見通し」に対する評価」につながるということであろう。

以上は、教育実習にあたって準備を進めてきた３年次生より出現した記述である。したがって、３年次生の経験上、これらが次の２年次生の実習準備として効果的なのではないかという判断ととらえてよいだろう。これらの意見を次年度も参考にしていきたい。

３．合同形式に対する希望（２年次生の希望）

次年度、今年度と同様の合同形式で実施するかどうかについて、２年次生の希望を「はい」「どちらかといえばはい」「どちらともいえない」「どちらかといえばいいえ」「いいえ」から選択してもらったところ、「はい」が４名、「どちらかとえいばはい」が２名、「どちらともいえない」が１名、「いいえ」が１名となっていた（Figure３）。８名中６名が程度の差こそあれ、合同形式による模擬授業を次年度も希望していると判断することができる。

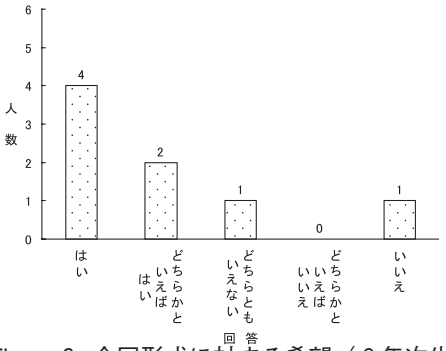

Figure３　合同形式に対する希望（２年次生）

各意見の理由は下記の通りであった。

「はい」とした学生の理由
・［記述№29］今回の３回生がこの体験でいろいろ発見できていたので、自分もやってみたいと思った。
・［記述№30］勉強になるし、改善点を詳しく聞けるから。
・［記述№31］生徒視点で授業を見ることができるから。
・［記述№32］実際に使用する教室で模擬授業を行う点は良いと思いました。生徒役を多く設定することも、リアルな教室にするのに効果的であると思いました。

「どちらかといえばはい」とした学生の理由
・［記述№33］本番前に、不完全な状態の自分の考えていた授業計画を、少なからず手直しする機会となると思う。
・［記述№34］得るものは多いですが、クーラーが効かないせいもあって、体力的にきつかったです。

「どちらともいえない」とした学生の理由
・［記述№35］１日時間をとられる。今年は介護等の関係もあったので、２回生の立場からすると、土、日に行うとか、介護等がかぶらない日に行うとかの配慮があったらよかったなぁと、少し思った。

「いいえ」とした学生の理由
・［記述№36］島根大学内でもできると思った。特に、設備面での支障もないと考える。

この項目に関しての自由記述は、基本的にそれぞれ別の内容を記述しており、また、「［記述№29］今回の３回生がこの体験でいろいろ発見できていた」「［記述№30］勉強になる」「［記述№34］得るものは多い」のように、表現も概括的であるため、分類は行わないこととした。記述内容として概括的であることは、この段階では、まだ、３年次生での教育実習が具体性を持って意識されていないということであろう。しかし、「［記述№30］改善点を詳しく聞けるから。」「［記述№32］実際に使用する

教室で模擬授業を行う点は良いと思いました。生徒役を多く設定することも、リアルな教室にするのに効果的であると思いました。」「［記述№33］本番前に、不完全な状態の自分の考えていた授業計画を、少なからず手直しする機会となると思う。」など、こちらがねらっている模擬授業実施の効果を意識した記述も認められる。量としては少ないが、２年次生の段階でもこれらの部分をある程度意識できる可能性のある部分であると考えた。

また、「［記述№31］生徒視点で授業を見ることができるから。」という記述は、授業を客観視するために必要な視点の一つを述べたものである。この視点は、２年次生が生徒役として模擬授業を受けながらも、次年度の授業実践に対していかにして具体性を持つかという点で、手がかりとなる視点となるのではないかと考えた。今後、この点を切り口に２年次生に働きかけてみたい。

「［記述№34］クーラーが効かないせいもあって、体力的にきつかったです。」という希望に関して、２年次生の立場から言えば、空調のない空間に身体が慣れていないからと判断できるが、３年次生の立場からすると、実習期間中の体調管理の側面から言って徐々に気温に慣れることも必要である。次年度以降附属中学校ではクーラーの使用が可能になる予定であるため、今回の意見や教育的意図を踏まえながらの使用を検討したい。

「［記述№35］１日時間をとられる。今年は介護等の関係もあったので、２回生の立場からすると、土、日に行うとか、介護等がかぶらない日に行うとかの配慮があったらよかったなぁと、少し思った。」という希望に関しては、介護等体験期間は、受け入れ先の予定で決定されることになるため、実際に介護等体験と日程が重なった場合の調整は困難であるといえる。（今年度、模擬授業実施の予定日は２カ月前には決定。）

今回附属中学校で実施したが、「［記述№36］島根大学内でもできると思った。特に、設備面での支障もないと考える。」のような記述もあった。しかし、２年次生の立場からの記述であり、３年次生になれば、また、変化がある可能性がある。次年度における希望を聞き、会場の決定を行いたい。

今後の課題

全自由記述内容を通して、内容の充実という観点から今後の課題として取り上げられる記述は、下記の通りである。

・［記述№４］しかし、過剰に役を演じすぎる部分は気をつけた方がいいと感じた。
・［記述№７］設定が過激に演じすぎるのでリアルさが少しなくなってしまった。
・［記述№７］時期がもう少し早いと、これから直すのに時間をかけられる。（８/25という時期について）
・［記述№24］２回生は今回見るだけだったので、もう少し２回生が活動的・主体的な形式だと良かったかなと思った。
・［記述№25］もし、来ていただける人がいるなら４回生さんに来てほしい。→よりリアルな体験をしている人が近くにいるため。（完全なボランティアになってしまうが。）
・［記述№26］人数という意味では賛成。他の専攻の人でも良かった気もする。
・［記述№28］人数が増えるという点ではよいと思いました。でも、三回生だけでも良かった気もします。
・［記述№29］今回の３回生がこの体験でいろいろ発見できていたので、自分もやってみたいと思った。

記述№7の設定を演じる時のあり方を記述した内容に対しては、２年次生についても事前に生徒観察を行わせ、より実習先の生徒の実態に即した応答ができるよう手立てを講じたい。このことは、模擬授業の中で生徒役として生徒の立場に立った応答をすることのみならず、観察者（すなわち２年次生）が生徒の実態把握にかかわる観察の視点を得ることにつながると考える。そのことが、記述№24に対しての解決策の一つになると考えている。また、№25に関しても、協力が得られる４年次生に声をかけ、後輩の模擬授業を見る機会を設けたい。この機会は、４年次生にとっても、１年前の自分を振り返る機会になると考えられる。上記のような取り組みを行うことで、国語教育コースならではの模擬授業を構築することにつながるとともに、他学年間で実施する意味を学生自身がより感じられるようになると考えている。また、そのことが、№26 と№28に対する解決策の一つとなると考えられる。

記述№7の時期的な問題に関しては、こちらの都合のみで実施することは難しいが、次年度以降、これらのニーズも含めながら可能な範囲で調整を行っていきたい。

記述№29は、意欲にかかわる記述である。２年次生の記述中、自分も取り組んでみたいとした記述はこの１名であった。まだ２年次生であるためとも考えられるが、教育的観点から言えば、２年次生であっても、「自分も取り組みたい」とする意欲を可能な限り育みたいと考える。［記述№24］とも関連づけ、２年次生がもっと主体的にかかわることができる方法を検討し、意欲の向上にもつなげたい。

文　献

島根大学教育学部（2014）．履修の手引 平成26年度 島根大学教育学部

註

１）島根大学教育学部（2014）履修の手引 p.62に記載。
２）広島大学附属小学校に関する記述は、記述した学生が広島大学附属小学校における「授業づくりフォーラム'14」に参加したことから記述した内容である。
３）２回生、２年生、２期生、２年次生はすべて同じ学年の学生を指す。３回生も同様である。